

経営比較分析表（平成29年度決算）

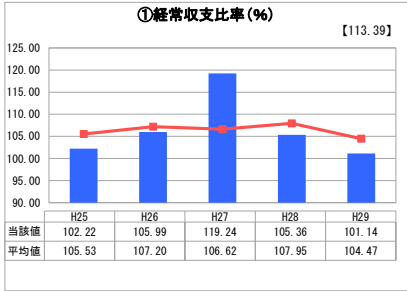
福島県 大玉村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	54.51	97.28	3,348	

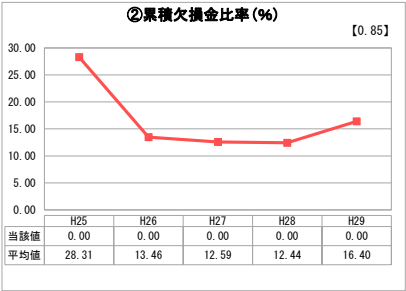
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,656	79.44	108.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,359	28.38	294.54

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

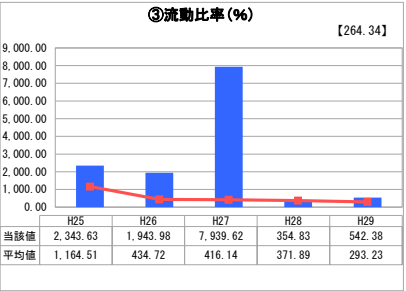
1. 経営の健全性・効率性



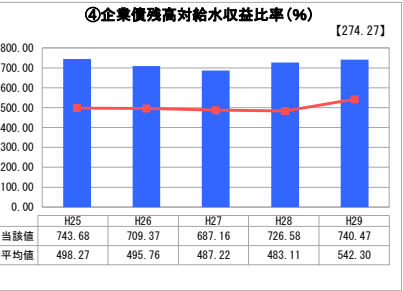
「経常損益」



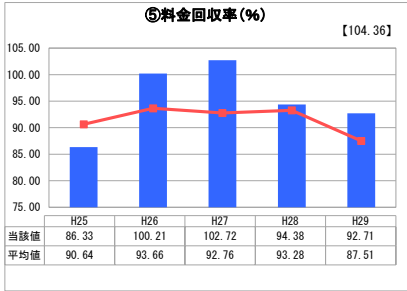
「累積欠損」



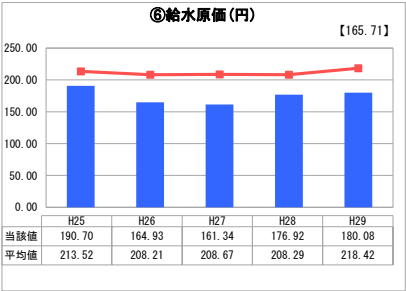
「支払能力」



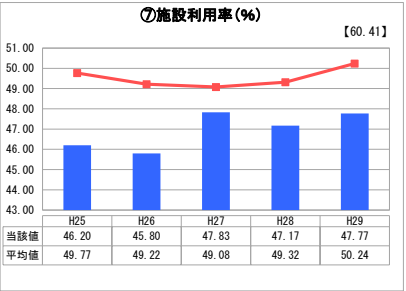
「債務残高」



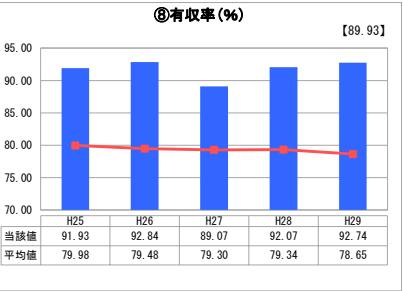
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

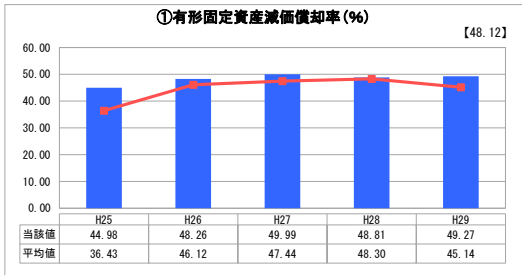


「施設の効率性」

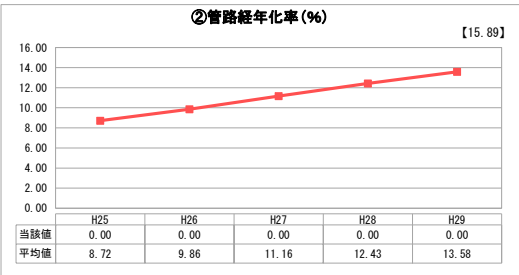


「供給した配水量の効率性」

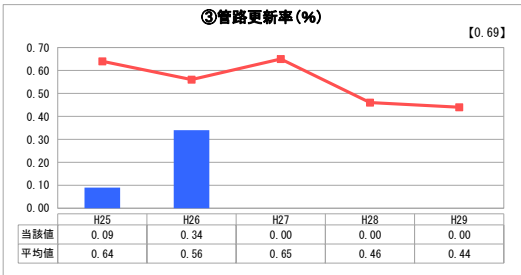
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性・効率性については、区域内の住宅及び集合住宅の建設の増加に伴い有収水量も例年微増しており平成26年度からは、一般会計より繰入を行わないで純利益は黒字となっている。

年間使用水量も年々増えているため今後増え続ける水需要に対応するためさらなる老朽管の更新や施設の効率化を図り水確保に努めていく。

2. 老朽化の状況について

昭和56年より給水開始を行い建設当初の管路は約37年が経過している。老朽管対策として平成27年から10年間で村内に埋設されている石綿セメント管約9Kmを対象に耐震管への布設替工を実施中。

全体総括

石綿セメント管の更新により災害時のライフラインの強化や将来の水源確保に伴う調査を進め水道の安定供給を図る。
また管路の更新や水源確保に伴う投資により施設の効率的な運営を行う。